

1. 定 住 意 識

1-1. 居 住 開 始 時 期

Q 1. 〔カード〕 あなたは、福生市にいつ頃からお住みですか。

図 1-1. 居住開始時期（時系列）

(N)	生まれた時から	昭和29年以前	昭和30年代	昭和40年代	昭和50年代	昭和60年以降	(%)
63年調査(776)	17	9	12	19	26	18	
60年調査(812)	16	12	11	22	昭和50年以降 39		
57年調査(797)	13	12	15	26	34		
53年調査(774)	13	15	20	33	19		

福生市に「生まれた時から」住んでいる人は53年調査以来漸増しているが、比率的には、「昭和50年代」に転入してきた人（26%）が最も多く、さらに「昭和60年以降」に転入してきた人も18%と多く、居住歴の浅い市民の割合が高い（注……60年調査までは、「昭和50年以降」までで区切っている）。

地域別にみると、「生まれた時から」住んでいる人はFブロックに24%と最も多く、逆に、最も少ないのは団地ブロックの2%であり、従って団地を含んでいるAブロック（12%）、Cブロック（13%）、Gブロック（15%）も低い数字となっている。また、Cブロックは「昭和60年以降」に転入してきた人が32%もあり、転出入の激しい地区といえる。一方、居住歴の長い人が多いのはFブロックであり、地域間で顕著な差異がみられる。

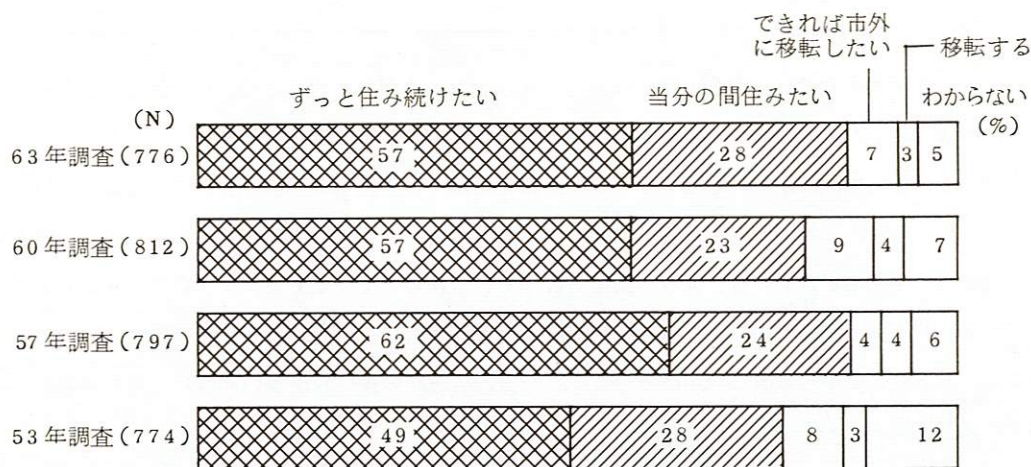
図 1-2. 居住開始時期（地域別）

	昭和29年以前		昭和30年代	昭和40年代		昭和50年代		昭和60年以降	(%)
(N)	生まれた時から								
Aブロック(106)	12	5	14	22		31		16	
Bブロック(108)	18		12	18		15	21		17
Cブロック(92)	13	2	5	15	33			32	
Dブロック(84)	19		14		14	21		19	12
Eブロック(113)	19		8	12	20		22		20
Fブロック(123)	24			13	15	13	27		8
Gブロック(150)	15		7	5	24		27		21
団地ブロック(100)	2	6	39			32		21	

1-2 定 住 意 向

Q 2. [カード] あなたは、今後も福生市に住み続けたいと思いますか、それとも、市外に移転したいと思いますか。この中ではどうでしょうか。

図 1-3. 定 住 意 向（時 系 列）



今回の市民の定住意向は「ずっと住み続けたい」と「当分の間住みたい」とを合計して 86%であり、60年調査と比較すると、「ずっと住み続けたい」の永住志向タイプは同じく 57%で変化はないが、「当分の間住みたい」は 23%から 28%と 5%増加している。

地域別にみると、B、D、E、Fブロックの定住意向が高く、特にFブロックの永住意向は 71%と 7割を超えている。一方、定住意向が低い地域は、A、C、Gブロックであるが、その中でも、C、Gブロック

の永住意向は41%と5割にみえない。

職業別では、地域との関わりの強い「自営業」に定住意向が強くなっている。一方、「事務・技術系勤め」「労務系勤め」などの勤め人の永住意向は5割程度で「自営業」の70%と比較すると2割程少ない。

住居形態は、定住意向に強い影響を与える要因の1つであるが、やはり、「持ち家1戸建て」に定住意向が強くなっている。しかし、同じ持ち家層である「分譲マンション」は借家層より低く、意識の差がみられる。一方、借家層の中では「アパート」の定住意向が弱く、永住意向は30%である。

図1-4. 定 住 意 向（地 域 別）

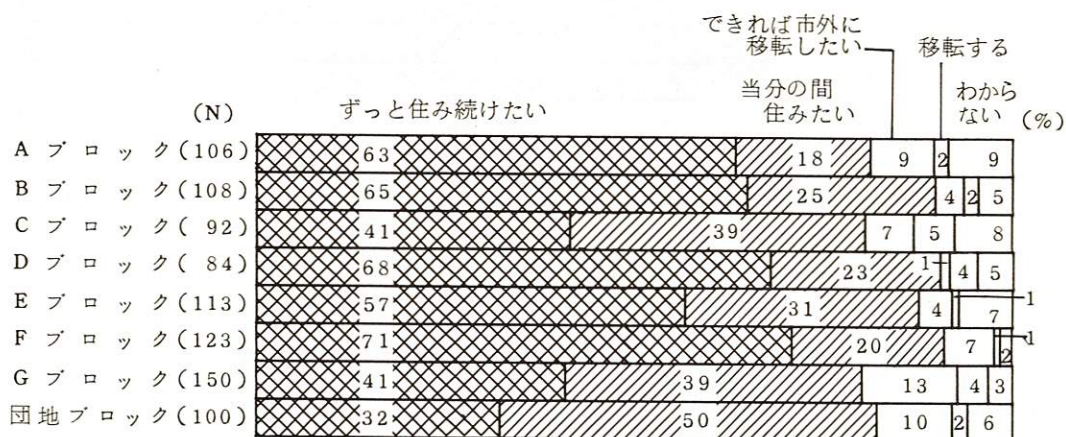


図1-5. "（職 業 別）

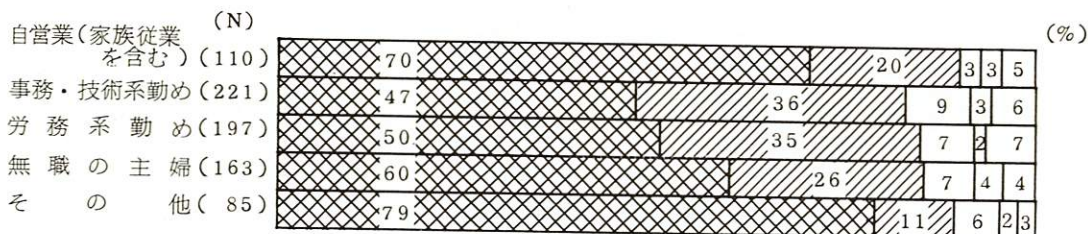


図1-6. "（住居形態別）

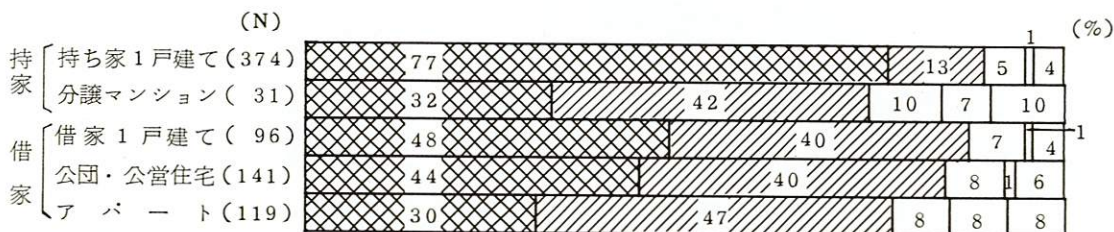
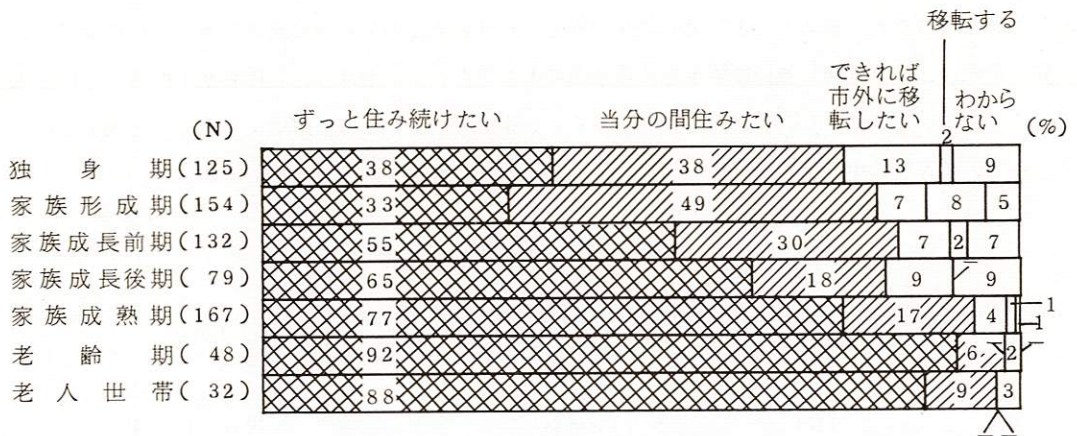


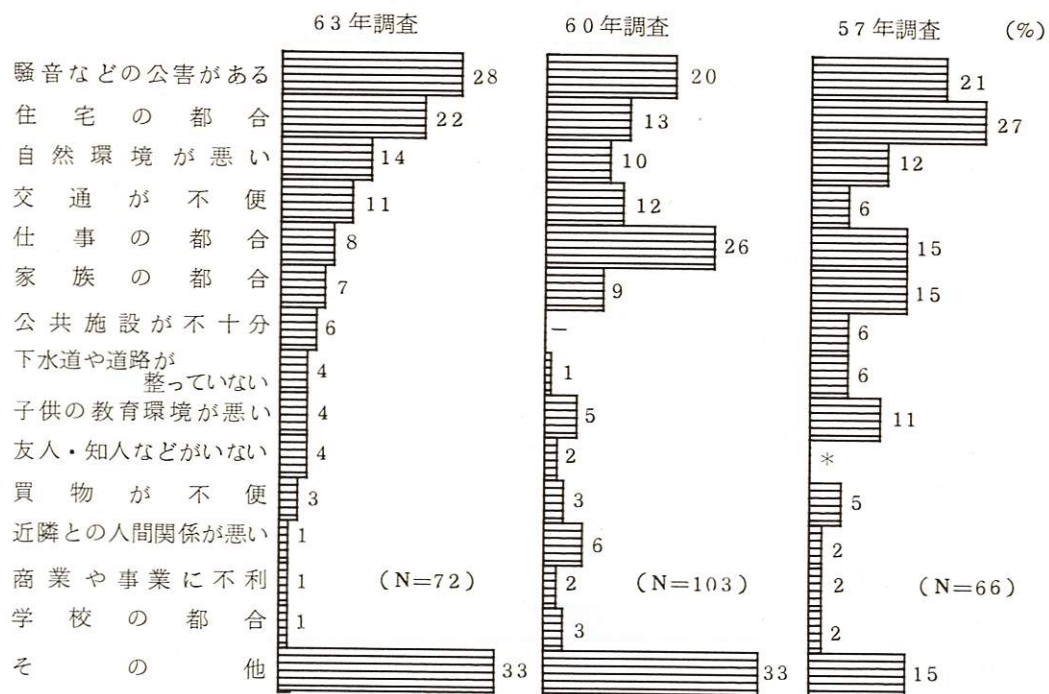
図1-7. 定住意向（ライフステージ別）



人生のいくつかの段階を、結婚、子どもの成長、子ども世帯との同・別居などの観点から分類したものがライフステージであり、それぞれの段階によって意識や行動力に変化がみられるという特徴がある。定住意向をこのライフステージ別にみると、全体的な傾向として、ライフステージの段階が進むに従って、定住意向も強くなることがあげられる。「ずっと住みたい」の永住志向タイプに限定してみると、一層、この傾向は強く、「老齢期」になると92%にも達している。しかし、「当分の間住みたい」の定着志向タイプは若い段階に多く、「独身期」で38%、「家族形成期」では49%にものぼっている。

2-1. 移転したいというのは、どうしてでしょうか。……他にはありませんか。(M.A.)

図1-8. 移転したい理由



* 60年調査からの追加項目

「移転したい」という人は全体の9.3%(72人)いる。この72人を100%として、その理由をみると、最も多いものは、「騒音などの公害がある」(28%)が最も多く、次いで、「住宅の都合」22%、「自然環境が悪い」14%となっている。

過去の調査結果と比較する場合、該当者数が少ないので、参考程度にみるべきであるが、今回1位の「騒音などの公害がある」は57年調査、60年調査では第2位にあげられている。

1-3 定着パターン

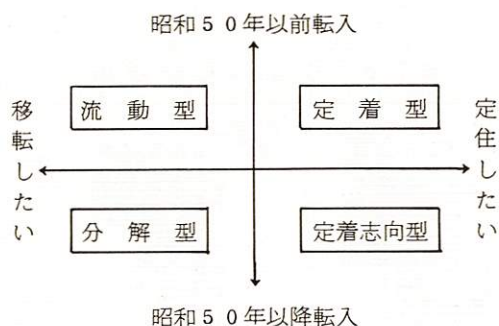


図1-9. 定着パターン

(N)	定着型	定着志向型	流動型			不明	(%)
			分解型				
63年調査(776)	50	36	4	6	5		
60年調査(812)	45	35	3	9	8		
57年調査(797)	47	38	11		3		

居住開始時期と定着志向とを組み合わせると4通りの定着パターンに分類した。前回の居住開始時期は昭和44年以前か昭和45年以降かで分けたが、今回は前回調査の行なわれた昭和60年から3年を経ていることから、昭和50年以前か昭和50年以降かで分けた。この結果、定着意志が最も強いと思われる「定着型」が50%で前回より5%増加しているが、これは、市民の定住意向がより高くなっていることの反映である。昭和50年以降に転入してきたが、定着意向を持つ「定着志向型」が36%、一方、13年以上住んでいるにもかかわらず、いまだに定着意向を持たない「流動型」が4%、昭和50年以降の転入者で定住を希望しない「分解型」が6%となっており、60年調査と比較した場合、3%減少しており、全体的にみると、定着性が高まっているようである。

図1-10. 定着パターン（地域別）

(N)	定着型	定着志向型	不明				(%)
			分解型	不明			
Aブロック(106)	47	34	2	9		9	
Bブロック(108)	57	32			3	3	5
Cブロック(92)	34	47		12			8
Dブロック(84)	63	27			2	2	5
Eブロック(113)	50	38	2	4			7
Fブロック(123)	58	33			6	2	2
Gブロック(150)	43	37	7		9		3
団地ブロック(100)	43	39	3	9		6	

図1-11. " (性・年齢別)

(N)		(%)					
男 (小計)(373)		51	34	4	5	6	
20代(86)	33	41	6	12		9	
30代(87)	39	51	1		5	5	
40代(73)	38	44	4	4		10	
50代(71)	73		17		4	4	1
60歳以上(56)	88			7	4	2	1
女 (小計)(403)		49	37	3	7	5	
20代(97)	35	47	5	7		5	
30代(89)	21	54	2	17		6	
40代(95)	59	30	4	3	4		
50代(64)	70	23			3	3	1
60歳以上(58)	72	22			2	3	

地域別にみると、「定着型」はDブロック(63%)に最も多く、次いで、Fブロック(58%)、Bブロック(57%)と続いており、前回の60年調査でもこの傾向がみられた。一方、Cブロックにおいては「定着型」が最も少なく34%であるが、「定着志向型」が47%と最も多く、昭和50年以降の転入者の定住意向の高さを示している。「分解型」については、団地をかかえたCブロック(12%)、Aブロック(9%)、Gブロック(9%)に多くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも、年齢が高くなるに従い、「定着型」が増加する傾向がみられ、地域への愛着度が強くなることを示していると同時に、長く福生市に住んでいる割合が高くなることを示している。男性の場合、「定着型」は20代で33%であるのに対し、60歳以上では88%にも達している。女性では、30代の「定着型」が21%と最も低くなっているが、男性と同様に60歳以上が72%と最も高くなっている。